

第4分科会 研究課題「組織・運営に関する課題」

研究主題「家庭や地域社会との継続的な連携・協働へ向けての教頭の関わり方」

～家庭や地域社会と一体となった教育活動の実践と考察～

宮崎支会 4班

1 主題設定の理由

これからの学校教育は、単に学校だけでなく、学校・家庭・地域社会が、それぞれ適切な役割分担を果たしつつ、相互に連携して行われることが望まれている。そこで、宮崎支会第4班では、家庭や地域社会に対して積極的に働きかけを行い、家庭や地域社会とともに児童を育てていくという視点に立った学校運営の実現に向けて連携を推進することが責務であると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

家庭や地域社会に開かれた学校を創るための教頭のよりよい関わり方を明らかにする。

3 研究の概要と成果

(1) 研究計画

本研究班は宮崎市内の小学校9校で構成されている。昨年度は高岡小学校におけるキャリア教育プログラム「高岡ゆめパーク学習」の実践を軸に、学校と家庭や地域社会との目標やビジョンを共有するための組織づくりに取り組んだ。その結果、充実した活動が展開されたが、教頭が地域のパイプ役となれる方策をより一層探る必要があるという課題が残った。そこで、2年間計画の2年目である本年度は、各校の実態に応じて、家庭や地域社会と一体となった教育活動を行い、これらの実践を整理し、考察することで、教頭のよりよい関わり方、有効な手立て等をまとめることとした。

(2) 研究の仮説

学校と家庭や地域社会が連携した教育活動を行い、その後の成果や課題を整理することで、教頭のよりよい関わり方が明確になるであろう。

(3) 研究内容

- ① 学校と家庭や地域社会が一体となった教育活動の実践
- ② 実践後の成果や課題を整理し、教頭のよりよい関わり方の視点で考察

(4) 各学校の実践と考察

ア 「西池小サポート制度」(西池小学校)

西池小学校では教育の充実、安全性の向上をねらって、保護者から学校サポーターを募集し、学校支援の組織を作った。

本年度は約70名の方が集まった。その後、説明会を開き目的や内容、手順の説明を行った。5月と11月に5年生、6年生

のミシンサポート、6～7月に全学年の水泳見守りや6年生の調理実習サポートを実施した。【写真1】



【写真1】ミシンサポートの様子

教頭は、サポーター募集の案内文書作成やサポートを必要とする教科等や内容等の調査、説明会の案内と実施、サポーターとの連絡調整、ネームプレート作成、出席表作成等を担った。

保護者への一方的なお願いではなく、教育効果や安全性の向上は、保護者と学校の共通の願いであるということを押さえ、また、保護者の欠席や相談への柔軟な対応をとったことで、スムーズに行うことができた。ただ、お願いしたい内容をもっと具体的にし、できるだけ早い時期に周知をすることが今後の課題である。

イ 「民生委員・児童委員との情報交換会」 (大宮小学校)

大宮小学校は、不登校傾向のある児童についての情報を共有し、朝の声かけや地域での見守り等をお願いする目的で民生委員・児童委員の方々と年に1度の情報交換会を実施している。【写真2】今年度、生徒指導実践推進校の指定となったことを機に、学校独自の校内教育支援教室を6月より開設し、そこでの学習支援スタッフとして民生委員・児童委員の方々の御理解と御協力をいただいていた。毎週火曜日と金曜日の午前中に開設し、現在6名程度の児童が教室とのオンライン授業を主として利用している。具体的な支援内容は見守りや声かけで毎回4～5名がスタッフとして活動し、教室全体の対応にあたるのは加配教員である。

教頭として、教室の立ち上げに際し、民生委員の会議にて趣旨への理解と協力を求め、開設以降は支援スタッフとの連絡調整

を把握し、スタッフへの声かけを適宜行っている。支援スタッフには20名以上のの方が登録し、地域と連携して児童の支援にあたることができている。



【写真2】情報交換会の様子

ウ 「PTCA活動」（宮崎大学附属小学校）

附属小学校には、PTCA活動（PTA＋Child）という、親と教師と児童の教育活動がある。三者が一体となって互いに理解し合いながら、校外活動等（地域資源を活用した活動と家庭内実践活動）を行う。各学年のテーマに沿って、地域の施設を使用したり講師を依頼したりした活動を行った。【写真3】



【写真3】4年PTCAの様子

教頭は保護者と職員のパイプ役として年度当初は動くが、徐々に学年主任へと役割をスライドさせていき、学年主任やPTAが判断しづらい案件が出てきた時に相談を受ける。また、講師や各施設長への依頼文書の点検をしたり校内で実施されるとき駐車場の手配や鍵の管理、講師対応等を行ったりした。昨年度は校内の活動が多く、PTAと前日準備を行ったが、今年度は、地域の施設に出向いての活動が多くなり準備や鍵の開閉もなくなったため、負担軽減にもつながった。

エ 「高岡ゆめパークキッズ編」（高岡小学校）

「高岡ゆめパーク」とは高岡地区内の学校のキャリア教育充実を目指し、地域企業と協力して実施している事業である。【写真4】

教頭は高岡町商工会の協力のもと、参加企業等の連絡調整や準備等を主に担っている。



【写真4】高岡ゆめパークの様子

事業開始より3年目となり、本年度も無事に実施できたが、下記の点で課題が見られた。

○ 事業組織の見える化と連携強化

小中一貫を通じての学習について、各学校での取り組み時期や事前学習の在り方、当日の運営担当分担などを職員に理解できる形での組織図や計画案の提示、研究が必要と感じた。

○ 情報の共有化の時期や方法の改善

ICT 機器の活用やメールなどの情報システム活用による関係機関との情報共有を図ることも今後は必要と感じた。

4 まとめ

前述の4校に加え、本研究班の他の5校の実践から見えた成果と課題を整理することでまとめとした。

○ 学校側と地域や保護者側の目的を共有し、互いのメリットを明確にすると、両者の負担感が減り、持続可能な活動が期待できる。地域の方々は児童との交流を楽しみにしている。

○ 活動の日程については早めに周知すると予定が立ちやすく、参加者が多くなる。

○ 役割分担や活動内容は明確にする。

○ 「地域の中の学校」という認識を基に職員の参画意識を高め、地域の方々が来校しやすい雰囲気を作る。

○ 連絡調整をする際、相互に確実な連絡をする。特に、コーディネーターとの連絡は密に行う。また、連絡手段として SNS や情報機器も有効である。

○ 主務者を教頭から学年主任等へ、場所を学校から地域へ徐々に移していく等を行うことで教頭の負担軽減につながる。

○ 活動のマナー化、形骸化を防ぐために活動の見直しや改善を行う。そのためにも次年度への引継ぎは、重点事項を含め、確実に行う。